

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	21927-00033		
法人名	特定非営利活動法人まめなかな		
事業所名	グループホームなごみ		
所在地	岐阜県高山市赤保木町1059番地1		
自己評価作成日	令和2年9月10日	評価結果市町村受理日	令和2年12月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajirokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2192700033-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 んふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和2年10月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームなごみも開所して9年目になりました。現在の利用者様は8名です。高齢になられてきた事もあり利用者様一人一人が本人様のペースで過ごすことができ、ゆったりと過ごせる時間を大切にしています。またご家族様とも細目に意見交換を行い、運営に反映できるように努めています。利用者様が日々を充実して過ごすことができるよう、職員間で話し合いを行い、形にとらわれない柔軟な対応を理想としています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、法人として2件目のグループホームである。二つの事業所で連携しながら、介護の基本である「利用者本位・利用者の自己決定」を大切に、利用者の残存能力を活かした支援に努めている。介護計画は家族が来所できる時間に合わせて、十分意見交換をした上で作成している。現在はコロナ禍である為、書面でのやり取りになっているが、家族の意見記入欄を作り、意向を確認しながら、支援の協力者として信頼関係を築いている。看取りは職員のチームワークで取り組み、管理者は、看取り後には職員の気持ちの切り替えに配慮して待機者をすぐには受け入れず、ゆとりを持った運営で利用者サービスの向上につなげている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は事務所に提示してあり、利用者様が在宅での暮らしに近い環境作りを心掛けています。残された機能を利用者様に発揮して頂けるよう介助も利用者様の能力に合わせ行っています。	理念は掲示及び職員会議で周知し、「地域のなかで生き生きと暮らしていけるよう安全・安心・質の高いサービス」の実践を目指している。コロナ禍にあっても、利用者の命を守る環境づくりに職員一丸となって取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度は新型コロナウイルスの影響により、行事関係を行うことが出来ていません。また感染予防の為外部との接触を極力避けています。	法人合同の夏祭りや感謝祭は、家族や地域住民、利用者、職員等、総勢100人以上の参加があり、地域交流につながっている。また、法人運営の「まめなカフェ」は、地域の人と利用者の楽しい交流の場となっている。現在は、新型コロナ感染予防の為、行事や交流を自粛している。	以前は地域の清掃や行事に参加していたが、数年前から途絶えている。事業所行事に招くだけでなく、地域に出向き、双方向での交流を図る事が望ましい。コロナ収束後には、さらに地域連携が深まる取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度は現状できていません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は第3回目まで中止となりました。今後行えるかどうかは、市役所と相談しながら検討していきます。ご家族様、町内会長様、民生委員様にはその都度アンケートを取り意見を頂いています。	隔月の運営推進会議は曜日や時間を固定することなく、家族が参加し易い土曜に開催することが多い。現在は、コロナ禍という事もあり、運営推進会議は書面会議としている。会議メンバーから意見を聞いて議事録を作成し、それを毎回配布している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	高山市主催の会議や交流会、イベントには必要最低限は参加しています。担当者とは電話で定期的に連絡を取っています。	市担当者から運営に必要な資料の提供や、コロナ対策についての情報メール配信が逐次あり、見落さないようにし運営に活かしている。行政主催の研修会や連絡会議に出来る限り出席し、連携に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束・言葉による拘束について定期的に勉強会を開き、職員全員が身体拘束をしない介護に取り組んでいます。	身体拘束廃止委員会を3ヵ月毎に開催し、全職員への周知及び研修をミーティング時に併せて行っている。身体拘束をしないケアはこれまでも意識して対応していたが、可視化できないスピーチロックも拘束にあたることを再認識し、ケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を定期的に行い虐待防止について学んでいます。職員の仕事による疲れやストレスが大きくかからないように、有休や公休をとりやすい環境作りをしています。		

岐阜県 グループホームなごみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活支援事業、成年後見制度について学ぶ機会を持ちます。必要時には活用できるように取り組みます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分に説明を行い本人様、ご家族様に同意を得ています。改定などの際にも説明を行い同意を得ています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今年度は中々集まる機会を設けることが出来ないため、電話やお手紙、アンケートを活用しています。	法人として年1回、年頭挨拶と併せて事業所の便りを発行している。家族には個々に利用者の様子を電話や手紙等で、その都度知らせている。3ヵ月毎の介護計画作成時には、家族と直接会って意見交換し、ケア以外の要望等も聴き、運営に反映させている。今年度は、新型コロナウイルス感染予防対策として、電話やアンケートで対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員から意見や提案があった時には、理事長などと相談してできる事はなるべく答えられるように対応しています。	勤務年数の長い職員が多く、理事長、管理者とは何でも話し合える風通しの良い職場環境にある。職員は気づきや要望等を職員共有の申し送りノートに記入し、常に管理者が目を通し回答している。職員の得意分野を活かしながら、サービスの向上に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤続5年、10年と働いた職員には表彰の機会を設けている。資格を取りやすいように勤務希望なども取りやすいようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤続2年以上の職員には認知症介護実践者研修など、可能な限り研修に参加できるようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度は現状できていません。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時には特に環境の変化に戸惑い、精神的に不安定になられる方もみえます。話を傾聴する姿勢を大事にしています。認知症状もあり非現実的な訴え等もありますが、否定をせず想いをありのまま受け取ります。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が気軽にお話しや相談ができるように、普段から連絡を多く取り合っています。要望などは出来る範囲で積極的に答えています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前にアセスメント、入所時にはケアプラン、その後評価を行い再度ケアプランを作成しています。本人様、ご家族様、必要な関係者と話し合いを進めサービスを提供しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に暮らす家族のように接しています。本人様が出来る事は見守り、助けが必要ような事にはお手伝いをさせていただきます。また利用者様の何気ない訴えにも耳を傾け良い関係性を築ける様努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	身体的、精神的、些細な日常の変化であっても、ご家族様に連絡をして状態を報告しています。ご家族様が訪問される事で、利用者様が普段と違う笑顔や喜びがあることをお伝えしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の制限などあり、家族、友人との連絡は電話ですべて頂いています。テレビ電話が活用できないか検討しています。	職員は、馴染みの人の来訪を笑顔で迎え入れ、帰り際には再来の声かけをし、関係を継続できるよう心掛けている。今はコロナ禍であるため、面会を制限し、電話等で対応しているが、三密を避けた環境を作った上で短時間の面会方法、テレビ電話等を利用した面会を検討している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の間でも仲の良い方、悪い方はみえます。認知症状の進行でコミュニケーションが困難になっている方もみえますが、職員が間に入り架け橋となれるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、相談やできる事は協力をしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様らしく生きがいを持って過ごす事ができるように、アセスメントを大切にしています。昔の趣味や、大切にしている物、現在の想いや、好きな事を細目に聞き取り支援に生かしています。	職員は、利用者の思いや意向を把握するために、日々、雑談を交えてのコミュニケーションを図りながら、信頼関係の構築に努めている。利用者のアセスメント情報に新たな気づきを加え、入浴時や夜間帯にゆっくり話を聴き、その人の思いや意向を引き出せるよう心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や馴染みである暮らしを職員で共有しています。本人様、御家族様、友人、知人に話をお聞きして把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の心身の状態は歳を重ねるごとに変化しています。体力、筋力、注意力、病気など個別にしっかりと把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	協力医、担当医、看護師、介護職員、利用者様、ご家族様の意見、希望を反映できるように介護計画を3ヶ月ごとに見直しを行い作成をしています。	面会時とは別に、仕事帰り等の家族の都合に合わせ、意見交換する時間を設けている。利用者の現状を家族と共有しながら、介護計画を作成している。今は、家族の意見記入欄を設けた書面での意見交換となっているが、モニタリングで支援結果を評価し、次の計画に繋げ、随時見直しも行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様一人一人個別に毎日の様子など日報に記しています。職員間での情報の共有、実践できるように申し送り、介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人としてグループホーム、有料老人ホーム、小規模多機能型居宅介護を持ち利用者様の要望に応じてサービスが選択できるように体制を整えています。		

岐阜県 グループホームなごみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	髪のカットは馴染んでいる美容師の方に訪問して頂いていましたが、感染のリスクを考え同法人の職員に今後依頼する予定です。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医に往診して頂いています。受診時には職員が送迎を行う事もあります。以前から利用していたかかりつけ医師を希望される方には、そちらを利用して頂いています。	協力医は、在宅医療を行う医師であり、利用者個々の往診日に合わせて週に数回訪れ、利用者は、状態に応じた適切な医療支援を受けることができている。また、職員として看護師を配置しており、毎日のバイタルチェックを行いながら、24時間の医療連携の下で利用者の健康管理を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人の看護師、訪問介護ステーションと連携しています。利用者様の身体状況を介護士が報告して、適切な対応ができるよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時など協力医、医療機関と情報を交換して利用者様が安心して治療できるように早期に対応します。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた方針は、入所時に利用者様家族に希望をお聞きしています。また利用者様の状態により段階的に話し合いの同意を得ています。本人様の希望がある場合にもできる限りこたえられるよう対応します。	入居時に、重度化及び看取りの指針について本人・家族に詳細に説明を行い、職員は、看取り研修を重ねながら支援に取り組んでいる。急変時や入院先、看取り介護等、希望する対応を事前に確認し、同意を得ている。終末期の支援過程において、家族の気持ちの変化にも寄り添い、支援している	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の急変や事故に対応できるように、職員全員が消防署で普通救命講習を受けています。AEDもグループホーム内に設置してあります。今後も訓練、講習、勉強会を継続します。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害訓練は定期的実施しています。居室の入口に車椅子や難聴などの表記をしています。防災器具、備蓄品の他にも停電時に備え発電機の購入しました。	貯水タンクや発電機を設置し、災害時の断水や停電に備えている。防災グッズは、直ぐ持ち出せるようリュックに保管している。備蓄品の定期点検と併せて非常食を試食し、利用者にあった物を選んでいる。また、運営推進会議で防災訓練での課題を話し合っている。	ホームの防災訓練等の取り組みに、近隣の協力を得る為には、まず、事業所として、地域で開催される防災訓練に参加することが望ましい。運営推進会議でも話し合い、地域連携の防災体制の構築に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員間でも声かけの重要性、傾聴する姿勢の大切さを話し合い、実践しています。	職員一人ひとりが、日々、利用者と向き合いながら、自己決定の尊重と利用者本位の支援に努めている。特に、排泄や入浴介助では、誇りやプライバシーを損ねない声掛けと対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が希望など話しやすい雰囲気づくりに努めています。自己決定や選択ができるように日頃より信頼関係を大切にしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まりや都合を優先する事なく臨機応変に対応する事を職員全員が心掛けています。利用者様一人一人のペースで過ごせるように本人様に確認しながら支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の好みの衣類を着用して頂いています。自身で難しい方は一緒にタンスの中を見ながら衣類を選択しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好きな食べ物や嫌いな物にもできる限り対応できるようメニューも工夫しています。準備や片づけは一緒に行うことが難しくなってきました。身体的能力もですが利用者間の人間関係も要因の一つになっています。	利用者の高齢化や重度化に伴い、ケアに費やす時間が多くなっている。これまでは、三食とも手作りで食事提供であったが、週半分程度、利用者の状態に合わせて提供できる配食サービスも利用している。職員は、利用者と一緒に食し、味や食材を話題にしながら雰囲気作りに努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日利用者様の食事量を記入して表に記入しています。体重の増減にも気を配り、毎月3回測定しています。十分な水分量を確保できるように、少量を細目に補給して頂いています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後その方に応じた声かけ、介助を行っています。歯磨きや義歯の手入れは細目に行い、不具合があった時には、歯科に往診を依頼して対応しています。		

岐阜県 グループホームなごみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	安易にオムツやポータブルトイレを使用するのではなく個々の身体能力、認知症状を考慮してトイレでの排泄に向けた支援を行っています。	排泄リズムを掴むため、何度も声掛けをするが、個々のパターンの把握後は、声掛けや誘導が必要な人、見守りで後始末の確認が必要な人など、利用者の状態に合わせた排泄支援を実践している。排尿回数を気にして水分を控える人には、パッド等で安心感が持てるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	慢性の便秘症の方には医師の診断、指示のもと下剤を服用して頂いています。水分補給を細目に行い、日中を活動的に過ごす事で、腸の活動が活発になるよう取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は週2回設けています。本人様の気分や体調により次の日に入浴するなど、利用者様のペースを大事にしています。身体的負担を軽減できるよう機械浴利用の方も数名みえます。	入浴日以外であっても、柔軟に変更や希望に応じている。同性介助が整わない時は、利用者に同意を得て介助にあたっている。機械浴もあり、利用者の安楽、安心な入浴となっている。職員は、入浴時間が利用者にとって至福の時となるよう、コミュニケーションを図りながら支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人様のペースや状況に応じて、休みたいときには、居室で過ごして頂いています。室内の温度や騒音、安眠の妨げになる皮膚の疾患などにも注意します。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬を確認するまで目視で確認しています。チェックリストも作成して、誤薬がないよう服薬前と2回確認しています。処方せんは個別にまとめてあり、目的や副作用など職員全員が確認をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様一人一人レクや軽作業でも、得意なもの不得意なもの、好き嫌いがはっきりしているので、個別に行ったり内容を工夫しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や不要の外出は控えて頂いています。夏場は暑くて中々散歩には出かけられませんが、春先は外気浴や散歩に行くことができました。	事業所周辺の散歩や買い物、外食、ドライブ、市内の観光地めぐり等、外出の機会が多い。現在は、新型コロナウイルス感染予防対策を徹底し、利用者や家族の外出を含めて、全職員が不要不急の外出を自粛している。庭での外気浴、室内環境を整えながら、レクリエーション等を充実させながら、利用者の気分転換を図っている。	

岐阜県 グループホームなごみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人様が欲しい物がある時には職員が買い物に行き、お渡ししています。またご家族様に依頼する場合があります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される方には自由に電話などして頂いています。友人の方と手紙のやり取りをされる方もいらっしゃいます。本人様の希望に沿って支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間を居心地良く使用できるよう環境の整備や危険がないよう配慮して、清潔の保持も努めています。ホーム周辺には自然が多く、利用者様には花や田畑など、四季の移り変わりを身近で感じて頂いています。また、季節にあった貼り絵や折り紙など利用者様に作って頂き飾っています。	居間の窓から、外の田畑などの景観で季節を感じることができ、風通しの良い清潔な共用空間である。室内の温度差が生じないよう空調管理を行い、空気清浄機も設置している。利用者と物作りの得意な職員と一緒に作成した作品を飾り、レクリエーションでは、職員が利用者の歌に合わせてピアノを弾くこともあり、居心地の良い空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様各自落ち着く場所や楽しく話せる相手があります。安心して気楽に暮らせる空間が確保できるように努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から使い慣れた物や馴染みの物を持って来て頂き、自由に使用して頂いています。折り紙やカレンダーの展示や家具の配置を決定して頂くなど、居心地良く過ごせるよう工夫しています。	居室扉には太字で分かり易い表札を掲げ、居室間違いを防いでいる。居室のカレンダーや時計は、利用者の生活リズムの支援にもつながっている。家具を使いやすく配置し、整理整頓された居室の床には防災カーペットを敷き、安全で居心地の良い環境となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人ひとりできる事、できない事があるので、職員が理解、共有して手助けをさせて頂いています。安全かつ自立した生活が日々過ごせるよう支援しています。		